

年頭のあいさつ



下妻市長
稲葉 本治

あけましておめでとございます
皆さまには、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

おかげさまで、市長として市政のかし取り役を務めさせていただき、7回目の新春を迎えました。本年も「市民目線の市政運営」という政治姿勢のもと、市民の皆さまの期待と信頼に応えるため、さまざまな行政課題に全力で取り組んでまいります。

「財政」を「安心」に

財政の健全化では、一時の危機的状況を脱し、経常収支比率、実質公債費比率等が大きく改善しております。また、これまで企業誘致を積極的に進めてまいりましたが、既存の工業団地が完売したため、新たな

用地の確保に着手し、さらなる雇用と自主財源の充実を目指しております。

高齢化社会を迎え、その重要性を増している地域公共交通では、本年1月23日からコミュニティバス「シモンちゃんバス」がピアスパークしもつま小貝川ふれあい公園間のルートで実証運行を開始いたします。さらに平成29年度当初には、中心市街地活性化の仕掛け、まちなかのにぎわいづくりの拠点として、砂沼を望みできるカフェを併設した観光交流センター「さん歩の駅サン・SUNさぬま」が砂沼南岸に、屋根付き多目的広場「Waiaidoomしもつま」が旧ジャスコ跡地にオープンいたします。

安全で安心なまちづくり

近年、東日本大震災、平成27年9月関東・東北豪雨と相次ぐ大規模災害に見舞われた本市であります。これら震災や水害を教訓として防災・減災対策に取り組んでおります。中でもインフラ整備では、子どもたちの安全・安心を最優先に、学校施設の耐震化を計画的に進めてまいりました。平成30年4月の開校を目

途に改築工事を行っている下妻中学校の校舎が完成すると、市内すべての学校施設が耐震基準を満たすこととなります。

そのほか本市では、「健幸都市しもつま」をコンセプトとして中学3年生までの医療費無料化や各種検診・予防接種の助成など保健制度の拡充に力を注ぐとともに、耐震基準を満たしつつも古くなった大宝小学校・大形小学校の体育館の大規模修繕など教育関連予算に対する重点配分を行っております。平成31年度に「いきいき茨城ゆめ国体」開催を控え、スポーツによる健康づくりや生涯学習の振興を含む福祉教育のさらなる充実を図ります。

下妻ブランド

下妻ブランドの確立

全国各地で地域経済の疲弊が見られる中、本市は、これまでJAや商工会をはじめとする関係団体と協力・連携を図りながら、農・工・商のバランスが取れた着実な発展を目指してまいりました。特に基幹産業の農業では、農産物のブランド化や海外販路拡大に挑み、一定の成果を上げ

ております。今後ともトップセールスや商品PRを通じて本市の魅力を広げ発信し、より多くの方々に本市のよさを知っていただくことで、観光・交流人口の増加や市外からの定住促進につなげていきたいと考えております。

地方自治体を取り巻く情勢は、人口減少社会の到来や情報化・国際

化の進展などで著しく変化しております。本市も例外ではありません。しかし、その一方で、これまで市民の皆さまと共にまいりましたまちづくりの「種」が芽吹き、着実に成長していることを実感しております。本市は、これからの住みよさを指標として総合的な市のブランド力の向上に努め、市民の皆さまが誇りを持って「下妻

市民です」と言えるまちづくりを推し進めてまいりますので、皆さまには、より一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとりまして、健康で幸多き年となりますことを心からお祈り申し上げます、あいさつといたします。

新春インタビュー



チャレンジの年に

下妻市観光大使
女子柔道
塚田 真希さん

オリンピックで2大会連続のメダル獲得(柔道女子78kg超級・2004年アテネで金、2008年北京で銀)を成し遂げた塚田真希さんは、下妻市黒駒の出身で、平成24年3月に下妻市観光大使に就任しています。

平成28年4月からは指導者として東海大学柔道部の女子副監督、11月には女子監督に就任。8月のリオオリンピックでは柔道女子のコーチとして選手団を支え、日本勢のメダル獲得に貢献しました。

今月号では、5月21日付で下妻市体育協会の名誉会員にも就任し、今後の活躍が本市のスポーツの発展などにつながるものと大いに期待される塚田さんに、新年の抱負を語っていただきました。

指導者としてのチャレンジ

所属(東海大学柔道部)では11月に女子監督に就任し、責任がまた生まれたので、身の引き締まる思いです。これから学生が迷わないように指針を立てる部分で、結果を求めて焦ると怒られてしまいますが「チームづくりをどのようにしていくのか」、また全日本のコーチでは「要所で自分が求められていることは何なのか」を整理していくことが大事だと考えています。所属でも全日本でも「しっかり考えてチャレンジしていこう」と決めています。今年は「チャレンジの年」になります。

選手育成に「普通」「常識」「当たり前」を使わない

自分の中で「普通」「常識」「当たり前」という言葉を使わないように、学生や選手に向き合うようにしています。人との接し方で大切にしている部分であり、コミュニケーションでは気を付けています。

全日本では、2012年のロンドン五輪から柔道女子の特別コーチとして入り、ロンドン五輪後に正式にコーチに就任して4年スパンで動いています。ロンドン五輪では、指導者が選手を管理し、リードしていく指導法をとった中で柔道女子は金1個、銀1個、銅1個の計3個。今年8月のリオ五輪では、選手の自発を促すような指導法に変わり、選手とのやりとりには根気のいる作業でしたが、結果として金1個、銅4個の5階級でメダルを獲得できました。

2020年の東京五輪に向けては監督が変わり、新体制で次のスタートを切っています。監督によってチームのカラーは変わってきます。これまでの流れを見ている中で私ができることは、それぞれのカラーの中で良かった点とうまくいかなかった点を比較して、感じたことを監督に伝えて、選手が困らないようにやっつけていける環境づくりが私の役割になると思っています。

頑張ることが恩返し

私の中では、いつも下妻市の皆さんに温かく応援してもらっているのが励みになっています。下妻市は自分が生まれ育った場所なので、機会があれば積極的に講演などをやらせていただきたいという思いはあります。ただし、今は指導者としてスタートしたばかり。現役の時には目標を達成して地元に戻ったという感覚がある中で、指導者という新しいキャリアがスタートして間もない今は、地元に戻るといのがまだ早いというか、落ち着かない感覚があります。これから指導者として自分の中で目標を達成したときに、よい報告ができることをモチベーションにして一つ一つチャレンジしていきたい。よい報告ができるよう頑張っていくのが一つの恩返しだと思っています。